

事業所名

児童発達支援センターあゆむ（児童発達支援）

支援プログラム（参考様式）

作成日

令和7年

3月

1日

法人（事業所）理念	ノーマライゼーション（共生社会）の理念のもと、「ここで生まれ、ここで育ち、ここで暮らす」そんなあたりまえのことがあたりまえにできる地域社会に……。 「特別」を「特性」や「個性」としてとらえ、互いに支え合う地域社会に……。 「特別」が「あたりまえ」になる地域社会に……。 私達は、そんな地域社会づくりに貢献していきます。		
支援方針	地域の障がいのある未就学児の療育支援及び児童生徒の放課後の学童支援。また、その幼児・児童・生徒の保護者に対しての相談支援、幼児施設や学校等への訪問支援等、児童生徒の社会参加のために必要だと思われることを支援する。		
営業時間	8時30分から	17時15分まで	送迎実施の有無 あり なし
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態を把握するために、利用開始時に保護者より体調確認を行う。利用中も子どもの状態をきめ細やかに観察する。 その日の体調や本人の様子に合わせて室内外の遊びを提案する。 存分に遊んで気持ちを満たすことに重点を置き、充実感や達成感を味わったり、スムーズな切り替えに繋げる。 食事や排泄、着替え等生活に必要なスキルを身に付けられるよう支援を行う。 	
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 日々の関わりや遊びを通して体の使い方を身に付ける。 外遊びや遊具を利用した遊びを行い、身体能力向上を図る。 実際に見たり、触れたり、においを嗅ぐ感覚遊びを通して五感を楽しみながら育む。 本人の特性を考慮した環境設定を行う。 	
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 日課の見通しを持ち、興味関心のある活動に取り組めるよう配慮を行う。 遊びの中での気付きを大切に、経験を積み重ねる。 自分で選んで行動する様子を見守り、困った時にはどうしたらいいのか一緒に考えたり、選択肢を与えたり、必要に応じて伝える。 物の使い方や時間、数量、形、色など知識として習得できるように遊びを通して働きかける。 	
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 言語に限らず、表情や指さし、身振りなどで自分の気持ちを表現できるよう支援を行う。 物の名前や遊びの中で出てくる擬音語を言葉にして伝えることで、単語や語彙を増やす。 「開けて」「貸して」「待っててね」などやり取りする際に必要な言葉を伝えたり、他者へ伝え方が分からない時には本人の気持ちを代弁して言葉へと繋げる。 	
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> あゆむが子どもたちにとって安心できる居心地の良い場所、リフレッシュできる場所になれるよう関係作りや環境構成を行う。 遊びを通して、周りのお友達へ興味を持ち、お友達との関わりへと繋げる。 お友達との遊びの中では、必要に応じて気持ちを代弁したり仲介し、お友達と折り合いをつけながら関わることにできるように支援を行う。 	
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での困りごとや不安などを相談できる環境を整える。 保護者に寄り添い、丁寧な対応を心掛ける。 	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の希望や事業所での様子を見ながら、保育所等と情報共有を行い、適切なタイミングでステップアップを図る。 移行支援に関する情報を定期的に保護者へお伝えする。
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 保育所や医療機関、行政等の関係機関と連携を図る。 保育所等訪問支援を活用し、情報共有を行う。 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 日々のOJTを活用する。 法定研修や仕事上必要な研修に参加する。
主な行事等			